

【取組内容①】「対話的な学び」における教員の専門性を活かした授業モデルの創出

授業の流れ

- 課題の提示
- はじめの考えを入力
- 友だちの考えをじっくり読む（10分）
- **教科の専門に基づく、教員の解説、資料の提示**
- 友だちの考えを参照しながら、ペアやグループになって（自由選択）、話し合い
- 自分の考えを更新する
- 参考にした友達を明記する

君待つと -万葉・古今・新古今 ☆ 田

ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール 拡張機能 ヘルプ

100% 閲覧のみ

**教科の専門に基づく、教員の解説**

A1	A	B	C	D
1		「君待つと…」の和歌と現代語訳を読み、感じ取ったこと	鑑賞の観点	和歌から感じ取れること・魅力 文章で 100字程度
4		秋風のの寂しさ		一人で寂しく相手をずっと待っている様子と、夏に使ったすだれの役目は終わり少し肌寒い秋風が吹いてきて自分の恋しさと秋の寂しさと同じような心情をかけているところが魅力だと思います。
5		自分の好きな人が秋の風と一緒に自分の元へ来た感じ	心情 季節感	この和歌からは相手のことを思う気持ちを感じる事ができます。例えば、「あなたのおいでを待って私が恋しく思っている」というところでは一人であなたをいつまでも待ち続けているということが感じ取れたり、色んな視点から読むと最初は思っていなかったことを感じとることができるのが魅力だと思います。
6		孤独と寂しさ		ずっと「あなた」を待っている作者が秋風によって動かずすだれの音だけが聞こえてきて、「我が家」の中で「あなた」がいない事実や孤独と秋風の寒さからの時間の流れを感じている。秋になり葉が落ちていくなかで季節そのものの寂しさも感じつつ、季節が変わるほど待っている自分が悲しくなってくる。
7		人を待っているときの寂しさを感じられる	現代と共通する思い	和歌は短い言葉の中に当時の人々の喜びや悲しみ、感動が込められており、時代を短縮する人間の心の有り様を感じることができる。和歌に表れる心の有り様には、千年以上という長い年月を隔ててもなお現代と共通するものもあれば、現代と大きく異なるものもある。
8		「君」を待つと自分の愛する気持ちが秋の風のように吹いていける感じ。叙情のある歌。		「私」は「君」を待つと、恋する気持ちがまだ残っているとゆうような、自分の感情を和歌の中に入れて表しています。また、すだれをのぞきながら、「君」はまだ来ないのかという期待感を加え、秋の分かれる寂しい季節を入れることで、この歌の主人公の気持ちを表していると思います。

- 基本は「対話的な学び」の流れに沿って、友だちの考えをもとに自分の考えを更新する
- 専門性の高い内容や、既習事項からつながらない新規性の高い内容の場合には、教員から専門的な解説や、適切な資料の提示が必要になることがある
- 教員主導になりすぎず、生徒の考えをベースに適切なアドバイスや資料提示を調整してくることが、教員の専門性になっていく